

# 助動詞

〔A〕(訳)を参考にして、傍線部の助動詞の文法的意味として適切なものを選び。

1 楽がくの師しの、心整せいへて、深ふいき遺言いごせし琴ことなり。(うっほ物語)

(訳) 楽人が、心を正して、深い遺言をし「        」琴である。

- ① 強意
- ② 完了
- ③ 詠嘆
- ④ 過去

2 陳ちんを張はり戈ほこを持もたしめて後、我われその命いのちを司つかさどらん。(太平記)

(訳) 陣形ちんぎょうをとり戈ほこを持もた「        」てから、私わたしがその命いのち令しんをとりしきろう。

- ① 断定
- ② 尊敬
- ③ 使役
- ④ 命令

3 所ところもなく、車くるまも徒歩たふの人もありけむ。(大鏡・道長)

(訳) 隙間すきまもなく、牛車うしぐるまも徒歩たふの人もい「        」。

- ① 現在推量
- ② 過去推量
- ③ 伝聞・婉曲

- ④ 過去の伝聞・婉曲

1  
「        」  
」

2  
「        」  
」

3  
「        」  
」

4 先の歌には言ひ較ぶべからず。(無名抄)

(訳) 先ほどの歌とは比べて言う「 」ない。

- ①推量 ②可能 ③命令 ④当然 ⑤適当 ⑥意志

5 いかにかしがましく恐ろしからむ。(枕草子・五九)

(訳) どんなにやかましく恐ろしい「 」。

- ①推量 ②意志 ③適当・勧誘 ④仮定・婉曲

6 かかる雨なれば、「口惜し」と嘆かせたまふ。(落窪物語)

(訳) こんな雨なので、「残念だ」と「 」嘆き「 」。

- ①使役 ②尊敬

7 げにいとよき所なめり。汝が堂を建てよ。(大鏡・道長)

(訳) なるほどとてもよい場所「 」ようだ。おまえの寺を建てろ。

- ①命令 ②尊敬 ③使役 ④断定

4  
「  
」

5  
「  
」

6  
「  
」

7  
「  
」

8 人の書かする<sup>レ</sup>仏もおはしけり。(宇治拾遺物語)

(訳) 人が書か「<sup>レ</sup>」仏もおありだった。

- ①使役
- ②尊敬

9 東<sup>あづま</sup>の方<sup>かた</sup>に住むべき国求めにとて行きけり。(伊勢物語・九)

(訳) 東国の方に住む「<sup>レ</sup>」国を探しにと思つて出かけて行つた。

- ①推量
- ②意志
- ③可能
- ④当然
- ⑤命令
- ⑥適當

10 裳<sup>も</sup>のすそ、衣<sup>きぬ</sup>の袖<sup>そで</sup>、ゆくらむかたも知らず。(紫式部日記)

(訳) 裳の裾<sup>すそ</sup>や、着物の袖が、いつ「<sup>レ</sup>」ところもわからない。

- ①現在推量
- ②原因推量
- ③伝聞・婉曲

11 獣といへど虎、狼ならぬは住まざなり。(うつほ物語)

(訳) 獣というけれども虎や、狼では「<sup>レ</sup>」ものは住まないそうだ。

- ①打消推量
- ②過去
- ③完了
- ④打消

8  
「<sup>レ</sup>」  
「<sup>レ</sup>」

9  
「<sup>レ</sup>」  
「<sup>レ</sup>」

10  
「<sup>レ</sup>」  
「<sup>レ</sup>」

11  
「<sup>レ</sup>」  
「<sup>レ</sup>」

1 2 何ごとなりとも、それに知らぬことはあらじ。(住吉物語)

(訳) どんなことであつても、あなたにわからないことは「」。

- ① 打消推量
- ② 過去の原因推量
- ③ 過去の伝聞・婉曲

1 3 討たれたらんは、なんの詮せんかあらんずるぞ。(平家物語・一二之懸)

(訳) 討たれてしまった「」は、何のかいがあるだろうか。

- ① 適當
- ② 意志
- ③ 推量
- ④ 假定

1 4 つひに本意ほんいのごとくあひにけり。(伊勢物語・二三)

(訳) どうとうかねてからの願いの「」結婚した。

- ① 比況
- ② 例示
- ③ 希望
- ④ 婉曲

1 5 聞かまほしかりしことも聞かせず。(うつほ物語)

(訳) 聞き「」たことも聞かせない。

- ① 比況
- ② 例示
- ③ 希望
- ④ 婉曲

1 5  
「  
」

1 4  
「  
」

1 3  
「  
」

1 2  
「  
」

1 6 神鳴るさわぎに、え聞かざりけり。(伊勢物語・六)

(訳) 雷が鳴り響く騒々しさに、聞き取ることができ「」た。

- ①打消
- ②打消推量
- ③完了
- ④過去

1 7 鎮西育ちなれば、歩立ちはよかるらん。(保元物語)

(訳) 九州育ちなので、歩兵戦は上手な「」。

- ①現在推量
- ②原因推量
- ③伝聞・婉曲

1 8 さすがに住む人のあればなるべし。(徒然草・一一)

(訳) そうは言っても住む人がいるから「」だろう。

- ①断定
- ②存在
- ③推定
- ④完了

1 9 たしかにその車をぞ見まし。(源氏物語・夕顔)

(訳) しっかりとその車を見れ「」。

- ①反実仮想
- ②実現不可能な希望
- ③ためらいの意志

1 9  
「  
」

1 8  
「  
」

1 7  
「  
」

1 6  
「  
」

2 0 伊尹・兼通・兼家などが、言ひ催して、せさするならむ。(大鏡・師輔)

(訳) 伊尹・兼通・兼家などが、そのかして、さ「」のであるだろう。

- ①命令 ②使役 ③尊敬 ④断定

2 0 「」

〔B〕次の傍線部の文法的説明として適切なものを選び。

2 1 矢先を揃へてさしつめひきつめさんざんに射る。(平家物語・勝浦)

- ①完了の助動詞「り」連体形 ②可能の助動詞「る」終止形 ③上二段動詞の連体形活用語尾 ④

上二段動詞の終止形活用語尾

2 1 「」

2 2 あさましう思ひかけぬことどもかな。(大鏡・道隆)

- ①打消の助動詞「ず」連体形 ②ナ行下二段動詞(の一部) ③完了の助動詞「ぬ」終止形 ④ナ

変動詞の活用語尾(の一部)

2 2 「」

2 3 萩の音もやうやうあはれなるほどになりけり。(源氏物語・篝火)

- ①ラ行四段動詞「なる」の連体形 ②断定の助動詞「なり」連体形 ③推定の助動詞「なり」連体形

④ナリ活用形容動詞の連体形活用語尾

2 3 「」

2 4 みなうち解けてぬるもいとほづかし。(枕草子・一二〇)

①ナ変動詞の一部      ②完了の助動詞「ぬ」終止形      ③打消の助動詞「ず」連体形      ④ナ行下二段動

詞の一部

2 4  
〔  
〕

2 5 菊の花のうつろへるを折りて、男のもとへやる。(伊勢物語・一八)

①可能の助動詞「る」終止形      ②下二段動詞の活用語尾      ③上二段動詞の活用語尾      ④完了の助動

詞「り」連体形

2 5  
〔  
〕

2 6 知らぬ国に來にける心地していと悲し。(源氏物語・手習)

①ナ行下二段動詞(の一部)      ②ナ変動詞の活用語尾(の一部)      ③打消の助動詞「ず」連体形

④完了の助動詞「ぬ」終止形

2 6  
〔  
〕

2 7 毛のよく抜くるしろがねの毛抜き。(枕草子・七二)

①下二段動詞の連体形活用語尾      ②上二段動詞の連体形活用語尾      ③可能の助動詞「る」連体形の一

部      ④完了の助動詞「り」連体形

2 7  
〔  
〕

2 8 扇のにはあらで、くらげのななり。(枕草子・九八)

①推定の助動詞「なり」終止形 ②ラ行四段動詞 ③断定の助動詞「なり」終止形 ④ナリ活用形

容動詞の活用語尾

2 9 御消息あるなりけり。御使は蔵人弁なりけり。(源氏物語・松風)

①ナリ活用形容動詞の活用語尾 ②ラ行四段動詞 ③推定の助動詞「なり」連用形 ④断定の助動

詞「なり」連用形

3 0 ましていはむかたなく、あはれ悲しと思ひ嘆かる。(更級日記)

①完了の助動詞「り」連体形 ②上二段動詞の活用語尾 ③自発の助動詞「る」終止形 ④力変動

詞の活用語尾

3 1 この女を具して逃げぬ。(沙石集)

①打消の助動詞「ず」連体形 ②ナ行下二段動詞(の一部) ③ナ変動詞の活用語尾(の一部)

④完了の助動詞「ぬ」終止形

3 1 〔 〕

3 0 〔 〕

2 9 〔 〕

2 8 〔 〕



3 2 黄金こがねある竹を見つくることかさなりぬ。(竹取物語)

①ナ行下二段動詞(の一部) ②完了の助動詞「ぬ」終止形 ③ナ変動詞の活用語尾(の一部)

④打消の助動詞「ず」連体形

3 2 〔 〕

3 3 末すゑつかたになりおとにければ、音ねもせずなりぬ。(浜松中納言物語)

①ラ行四段動詞の連用形 ②ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾 ③断定の助動詞「なり」連用形

④推定の助動詞「なり」連用形

3 3 〔 〕

3 4 笛をいとをかしく吹きすまして、過ぎぬぬなり。(更級日記)

①断定の助動詞「なり」終止形 ②ナリ活用形容動詞の活用語尾 ③ラ行四段動詞 ④推定の助動

詞「なり」終止形

3 4 〔 〕

3 5 さだかに知れる人もなし。(徒然草・二五)

①上一段動詞の活用語尾 ②自発の助動詞「る」連体形の一部 ③完了の助動詞「り」連体形 ④

下二段動詞の活用語尾

3 5 〔 〕

3 6 ちりばかりの物も残さず、みなもていぬ。(大和物語)

①ナ行下二段動詞の終止形活用語尾 ②完了の助動詞「ぬ」終止形 ③打消の助動詞「ず」連体形

④ナ変動詞の終止形活用語尾

3 6  
〔 〕

3 7 宮仕へ心に入れて交じらひ、人に許さる。(うつほ物語)

①受身の助動詞「る」終止形 ②上一段動詞の活用語尾 ③下二段動詞の活用語尾 ④完了の助動

詞「り」連体形

3 7  
〔 〕

3 8 すべていはん方なくをかしげなり。(栄花物語)

①ラ行四段動詞 ②断定の助動詞「なり」終止形 ③ナリ活用形容動詞の終止形活用語尾 ④推定

の助動詞「なり」終止形

3 8  
〔 〕

3 9 いと騒がしう夜一夜行ふなり。(源氏物語・玉鬘)

①断定の助動詞「なり」終止形 ②ナリ活用形容動詞の活用語尾 ③推定の助動詞「なり」終止形

④ラ行四段動詞

3 9  
〔 〕

4 0 男もすなる日記にきといふものを、女もしてみむとてするなり。をむな（土佐日記）

① 断定の助動詞「なり」終止形

② ラ行四段動詞

③ 推定の助動詞「なり」終止形

④ ナリ活用形

容動詞の活用語尾

4 0

ハ

リ

解答

1 5 1 4 1 3 1 2 1 1 1 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
③ ① ④ ① ④ ③ ⑥ ① ④ ② ① ② ② ③ ④

2 8 2 7 2 6 2 5 2 4 2 3 2 2 2 1 2 0 1 9 1 8 1 7 1 6  
① ① ③ ④ ④ ④ ① ④ ② ② ① ② ①

4 0 3 9 3 8 3 7 3 6 3 5 3 4 3 3 3 2 3 1 3 0 2 9  
① ③ ③ ① ④ ③ ④ ① ② ④ ③ ④